

(仮称) 弘前市経営計画 (案) に係る意見等

	ページ	意見等の内容と対応状況
1	P2	総合計画と経営計画の意味合いを明確に説明するべき。 ⇒ P2以降の計画策定の趣旨・背景や計画の位置付けを整理し、新たな計画として経営計画を策定する旨を表記しています。
2	P8	人口減少・超高齢社会の到来について、人口が減少していくと推計されているが、弘前市として人口減少を食い止める、増やしていくといった意気込みを表現してはどうか。 ⇒ 人口減少対策を重点プロジェクトとして位置付け、笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)としました。
3	P12	国・地域間競争の激化と地域格差の拡大について、競争力の高い地域産業、人材の育成が必要不可欠とあり、市の経済構造を20年先を見越してどうしていくのか、しっかり定める事が重要だと考えている。 ⇒ 20年後を見据えた経済政策について、「なりわいづくり」戦略に基づき、農林業、観光、商工業それぞれ新規政策などを位置付けしました。
4	P25	子育てするにしても、働く場がなければいけない。最終的な雇用対策の位置づけを教えていただきたい。今は検討中であっても。 ⇒ 笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)で、働く場の創出をかかげ重点的に取り組むこととしています。
4	P26	市民行動プログラムにコンソが位置付けされるのは少し違和感がある。今後関係者と協議していくということであるが、現在、コンソの中でこのような議論はなされていない状況である。この図に関してはコンソの元々のミッションがゆがめられてしまいそうな危惧をもっている。 ⇒ 市民行動プログラムにあるように、今後関係者で協議していきます。
5	P26	市民行動プログラムについて 構成図のなかで、実施する取組として、具体的に項目を挙げていますが、私たちは、例として挙げてある項目として理解しますが、一般市民が見たときに、実際、実施する事業として見られると思いますので、この他にも事業として考えている意思表示をしたほうが良いのでは……。また、全体図の表現ですが、先日の会議でも触れたと思いますが、図をみて縦の繋がりだけではなく、横の繋がりもわかるようにしたほうが良いのでは？ 特に、今までと違う政策を打ち出して進めていると思うので、横の繋がりでの強調も必要かと思えます。 ⇒ 弘前市経営計画の構成図を見直したほか、市民行動プログラムの説明の中で例示である旨記載しました。
6	P42	「ひとづくり」について、今後の取り組みの方向性の記述が希薄に感じられる。 学校教育にはふれられているが、それ以外にも住民が市政に参加するような取組や、例えば起業者を増やしていく取組などにふれることによってより具体的なひとづくりの施策につながっていくと思う。 ⇒ 基本的に学校教育や生涯学習などは「ひとづくり」に位置付けているほか、分野ごとの人材育成については、それぞれの政策に事業を位置付けました。
7	P44	保育の話では、24時間保育やっている、持ち出しで、公益事業と思ってやっているが、共働きが多いから、夜遅くとまでとか、朝早くからとか、病児保育とかきちんと対応しなければならない。 ⇒ ひとづくり戦略 政策Ⅰ子育て 子育てに係る負担の軽減に記載し、預かりなどの事業を強化しました。
8	P46	「ひとづくり」の「取組③子どもを守るあいさつ運動」とあるが、昭和55年に全国的に始まり弘前でも実施していたがいつの頃かなくなった経緯がある。長続きするような形で取り組んでいただきたい。 ⇒ ひとづくり戦略 政策Ⅰ子育てに記載しており、市民と連携・協力し取り組んでいきます。また、いじめ防止を条例化したことで継続性は一定程度確保されています。
7	P48	すべての赤ちゃんに木製玩具、ブックスタート・バックのプレゼントはいらぬ ⇒ 幼児期の教育の充実を図る事業として取り組んでいきます。
9	P50	特別支援教育支援員の増員 ⇒ ひとづくり戦略 政策Ⅱ子どもの学び 学びと育ちの環境の充実位置付け増員しています。

	ページ	意見等の内容と対応状況
10	P52	子どもの教育や、文化的事業については数多く施策、事業として挙げられています が、子どもたちを導いていく大人の教育についての事業がわかりづらくまた、該当 するものが施策としてあるのかわからないので教えてください。 ⇒ ひとつづくり戦略 政策Ⅲ 多様な学び 学び合い支えあう生涯学習活動の推進 に記載しています。
11	P52	教育は知識を詰め込むばかりでなく、学びには思いやり、やさしさが必要。知識だ けでなく智恵が重要。これを行うのが社会教育であり、次世代へ我々大人からもっ と熱いメッセージを送る必要があると感じている。社会教育を見直す機会として、 20年後もっと社会教育が進んでいるように、人と人とのつながりが深まっている 時代とするためにも、もっと強く盛り込んでいただきたい。 ⇒ ひとつづくり戦略 政策Ⅲ 多様な学びに位置付け取り組んでいきます。
12	P57	「医療が充実したまち」と書かれてしまうと後何も検討しなくていいなとなるが、 違うと思う。例えば、救急医療をとってみると大学病院以外では充実しているかと いえばそうではない。人口に対する医師の数が全国平均を大きく上回っていること をもってこうした表現になったと思うが、医師が沢山いればいいのかというと、い るだけではなく中身が重要。 ⇒ 具体的な状況分析については、くらしづくり戦略 政策Ⅰ 健康 現状と課題 に記載しています。
13	P58	胃がんの検診が出ているが、肺がんと大腸がんの死亡率が高い。肺がんには、禁煙 が効く、禁煙への取り組みを強化していただきたい。いろいろ難しいが、公共の場 などでの副流煙の問題など、禁煙対策、禁煙運動を徹底的に行なって欲しい。 ⇒ くらしづくり戦略 政策Ⅰ 健康 生活習慣病発症及び重症化の予防に位置付 け検討していきます。
14	P58	事務事業の事業内容についてですが、同じような施策で、「岩木」「相馬」に特定 した事業が挙げられています。事業概要を見ると、「岩木」「相馬」に限っていな いものもありますが、合併前からの事業もあるかと思いますが、旧弘前市において も同様の事業が行われているとしたら、特定の地区を事業名に入れる必要はないと 思います。（事業内容が、全く別の事業である場合は必要と思いますが） ⇒ 健康増進プロジェクトは、岩木地区から始まり、相馬地区に拡大、さらには旧弘 前市に展開している経緯があることから地区名を入れています。
15	P58	検診の受診率を上げる工夫 ⇒ くらしづくり戦略 政策Ⅰ 健康 生活習慣病発症及び重症化の予防に記載し、 受診率向上に向けた取り組みを強化しました。
16	P59	弘前市の医療は、大学病院だけが担うのではなく、市立病院も担わなければならない 。市が医療を良くしたいと考えるならば、市立病院が拠点として機能しないと いけないと思う。 ⇒ P72 くらしづくり戦略 政策Ⅰ 健康 地域医療提供基盤の充実・安定化に記 載し、自治体病院の再編について計画事業として実施します。
17	P70	空き家対策というものがあるんですね。特に、文京町あたりも空き家が多くて、 空き公共施設などもあるが、人口減少社会のなかで、ストックということも言える が、その活用ということも視野に入れていかなければいけない。 ⇒ まちづくり戦略 政策Ⅱ 都市環境 快適な都市空間の形成 良好な市街地の 形成 に記載し、移住による空き家解消などを進めていきます。
18	P76	弘前は人にやさしくない交通環境である。住んでみたいまちであることを目指すな ら、交通マナーを徹底してほしい。根本から変えなければいけない。歩道が整備さ れていないなどは、狭い土地で仕方がないが、マナーは教育していける。 ⇒ まちづくり戦略 政策Ⅲ 生活基盤 道路環境の安全性の向上 交通安全対策 の推進で取り組んでいきます。
19	P82	りんごの海外輸出について、「最大輸出国である台湾市場の拡大は今後見込めな い・・・」とあるが、これからの意気込みが感じられない。 ⇒ 上記の記述は、構成の再整理の中で削除することとしました。事業としては 「弘前市・台南市果物交流事業」や「りんご輸出促進強化事業」として計画に盛り 込んでいます。
20	P88	先日、オーロラを見に行った。オーロラは夜ですよ。ですから、夜の見る場所が あれば、宿泊する人も増えると思っている。岩木さんに沈む金星の姿なども美しい し、どこかで、夕日が美しい場所をウリにしているところもある。そういった、夜 の観光をやっていくことも大切である。

	ページ	意見等の内容と対応状況
		⇒ なりわいづくり戦略 政策Ⅱ 観光振興 戦略的な誘客活動の展開で取り組んでいきます。
21	P88	弘前の観光というのは他市町村に比べては良くやっているというほめ言葉もいただいている。しかし、実際は、受入環境について、例えば多言語化などは進んでいない。始まったばかり。市長さんもインバウンドということで話しているが、計画事業として載っているが、あえてここで、焦点を絞ってインバウンドの受け入れ対策を強化していただきたい。 ⇒ なりわいづくり戦略 政策Ⅱ 観光振興 国外観光客の誘致促進で取り組んでいきます。
22	P88	石場旅館などに泊まった外国人が禅林街に行ってもらうなど、そういった対応（おもてなし）の向上が大切である。 ⇒ なりわいづくり戦略 政策Ⅱ 観光振興 国外観光客の誘致促進で取り組んでいきます。
23	P91	高齢者の買い物支援 ⇒ なりわいづくり戦略 政策Ⅲ 商工業振興 商業の活性化 に位置付けています。
24	P94	弘前の経営計画に関しては、雇用の問題が大切であるが、その前に、まず、産業体系がどのようになっているか分析をし、弘前の弱いところが何か、それに対してどう取り組むのか、どの分野に創業、起業を促すのかが大切である。誘致については、今の時代は2次産業が大事。しかし、データとして弘前市の産業体系を分析しなければ。我々が要望している弘前市産業振興計画を策定して、基礎データをあつめ、全体（観光、農業、商工業）をとおした見方をしなければ、雇用の議論まで進めないで、お願いしたい。 ⇒ 戦略推進システム（重点システム）で取り組んでいきます。
25	P98	学都というけれどもこれも同様で、弘前市が積極的に地域の課題を研究してもらう研究者を養成するようなアクションを起こしてもらいたい。そうでないと、特徴のある学都と言えないのではないか。秋田や盛岡、どこにでもあてはまるような実感のない表現になっている。 ⇒ 仕組みづくりⅠ オール弘前体制の構築 大学・研究機関等との連携の推進で取り組んでいきます。
26	P98	この戦略体系の中にコンソーシアムについて掲載されているが、高等教育機関コンソーシアムの機能そのものと、経営計画の中にある事業とでどう整合性があるのかが、わからない。コンソーシアムの組織を支援するのか、コンソーシアムの活動を支援するのか？ ⇒ 仕組みづくりⅠ オール弘前体制の構築 大学・研究機関等との連携の推進において、さらに連携を強化し地域づくりを進めていくこととしています。
27	P106	指標については、その成果をどのように数値化して反映させていくかということが難しい。例えば、アンケートなどもそうである。アンケート結果の反映が難しいのではないか。アンケート方法についても郵送のみで、誤差が大きいのではないかと考えている。アンケート結果に対する行政と、市民評価会議との受け取り方の相違があった。その点を注意していただきたい。 ⇒ 趣旨を踏まえ、第4章 経営計画のマネジメントで取り組みます。
28	P106	・ これまでの取組の部分について、PDCAによるマネジメントには評価・点検の機能が非常に重要であり、さらに充実させる必要がある。 ・ 市民の声に行政がどう対応したか見えるようにしないといけない。 ・ 総合計画の進行管理を行う体制を充実させていただきたい。 ⇒ 第4章 経営計画のマネジメントに、具体的に位置付けました。
29	資料編	全般的にアクションプランの取組について、成果と今後の取組の方向性の記述のつながりがわかりにくい。 ⇒ 「アクションプランの成果と総括」は資料編に盛り込むとともに、表現を見直しました。

	ページ	意見等の内容と対応状況
30	資料編	<p>学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの取組として「共通授業」に関しての表記で、今年度はこのような取組になったが、本来の趣旨ではない。コンソーシアムへの支援や協働した取組などにより学生が地域参加するなど学都ひろさきをつくってきた大きな要因となっていることにふれていただきたい。</p> <p>⇒ 上記の記述は、資料編に移動した「アクションプランの成果と総括」にあったものですが、構成を見直したことから記述しないこととしました。</p> <p>なお、仕組みづくりⅠ オール弘前体制の構築 大学・研究機関等との連携の推進において、さらに連携を強化し地域づくりを進めていくこととしています。</p>
31	資料編	<p>農林資源について、米に関する記述がない。例えば、酒米、非常に優れた「華想い」というのがある。こういったものについては是非ふれていただきたい。</p> <p>⇒ 資料編の「弘前市が持つ地域資源」の中に、意見を反映させています。</p>
32	資料編	<p>歴史・伝統・文化について、伝統工芸品として3つ例が挙げられているがこれ以外にもあるので伝統工芸品等の表現にしていきたい。</p> <p>⇒ 資料編の「弘前市が持つ地域資源」の中に、意見を反映させています。</p>
33	資料編	<p>市の福祉に関わる記述が弱い印象を受ける。地域資源のところに医療・介護資源としてあるが、あるから安心ではなく困っている方も多くいる現状を評価して、もう少し福祉についても取り上げる必要があると感じた。</p> <p>⇒ 資料編「弘前の持つ地域資源」の中に当市の特色である医療・介護資源として記述していますが、「くらしづくり」戦略において福祉政策の充実を図るよう取り組むこととしています。</p>
34		<p>学校を新しくして欲しい。</p> <p>⇒ 計画的に対応していきます。</p>
35		<p>学校環境を変える ICT活用できる環境（器具を運ぶのが不便）の整備</p> <p>⇒ 計画的に対応していきます。</p>
36		<p>外国人児童・帰国子女対策としてセンター的な役割を持った場所の設定</p> <p>⇒ 通訳が必要な児童生徒には、個別に対応しています。</p>
37		<p>アドバンテージ、イノベーション、インバウンドなど横文字が多すぎる。高齢者には分からない、括弧書きの説明などの配慮が欲しい。</p> <p>⇒ 難解なものには、括弧書きで説明を併記しています。</p>